

**令和 6 年度第 1 回岐阜市公立大学法人評価委員会
議事録 概要**

【日 時】 令和 6 年 7 月 22 日（月）14 時 00 分～15 時 30 分
※15 時 30 分から学内視察を実施

【場 所】 岐阜薬科大学本部学舎 2 階 大会議室

【出 席 者】

（委員）加藤 義人委員長、小林 宏委員、棚瀬 友啓委員、長合 孝司委員、
長谷川 洋一委員（委員長代理）

（岐阜市）若山企画部長、田中企画部総合政策課大学改革推進室長 他

（岐阜薬科大学）原学長、杉原事務局長、久富大学法人化推進審議監 他

1 開会

◆企画部長あいさつ

◆岐阜薬科大学長あいさつ

2 委員長選出、委員長代理指名

岐阜市公立大学法人評価委員会条例に基づき、委員長に加藤委員を選出、委員長代理に長谷川委員を指名。

3 議事

（1）岐阜市公立大学法人の概要について

（2）岐阜市公立大学法人評価委員会の設置について

（3）岐阜薬科大学の概要について

◆（1）（2）は事務局から、（3）は岐阜薬科大学（以下、薬大という）から資料に基づき説明

○加藤委員長

・これまでの説明について質問がある方は発言願いたい。

○小林委員

・薬学部には 4+2 年制と 6 年制があるが、薬大の場合は学部 6 年の後に大学院へ進むという流れでよいか。

○原学長

・そのとおりである。7 年前までは、学部 4 年、修士 2 年の後 2 年間の実務実習等を受ければ薬剤師の受験資格を得られたため、その頃は薬大にも 4 年制の薬科学科があったが、制度の廃止に伴い 6 年制の薬学科に統一した。学部 6 年

の後に大学院 4 年間となる。先ほど説明した大学院進学者は、すべて 4 年間大学院に通う学生のことである。

○小林委員

- ・大学院に入試はあるか。また、どうやって Ph. D. を取得するのか。

○原学長

- ・大学院も入試はある。Ph. D. に関して、「博士（薬学）」を取得するためには、自身が関心のある分野の研究室の口頭試問に合格して大学院に入った後、4 年間のうちに本人がファーストオーサーとなる公表論文を執筆し、博士論文発表会において発表後、査読を経て論文としてまとめ、教授会で認められる必要がある。ほとんどの学生は二編以上の論文を執筆する。頑張れば 3 年間で博士を取ることもできるが、あまりそうした学生はおらず、4 年間しっかりかけて卒業する。
- ・大学院在学中には留学や研究発表、企業での研修等に行って力をつけ、卒業後は企業で研究を行う学生が多い。薬剤師免許は学部終了時に取得する。学生の負担が少なくなるよう、同窓会や企業、国からの支援を得てサポートしている。

○長谷川委員

- ・大学院の博士課程は定員 5 名のところ入学者 14 名とのことだった。名城大学では社会人の大学院入学者が多いが、薬大はどのような内訳か。

○原学長

- ・年度によってばらつきはあるが、社会人は 3 割程度。博士課程には後期もあるため定員オーバーしている。

○長谷川委員

- ・将来的な後継者を育てようとする大学院生は大事。定員以上の入学者がいることは頼もしい。
- ・岐阜市公立大学法人は理事長が学長を兼務する一体型とのことだったが、全国的にも一体型が多いのか。理事長に過度な権限が集中しないようにするとの説明もあったが、一体型だと権限が集中してしまうように思うが。

○田中大学改革推進室長

- ・全国的に一体型と分離型のどちらかが極端に多いということはないが、単科大学や薬大のような小規模な大学では比較的一体型が多い傾向にある。
- ・一体型の場合、理事長に権限が集中する懸念もあるが、リーダーシップを発揮し機動的であることと表裏の関係であり、双方にメリットとデメリットがあ

る。一体型とすることで機動的でコンパクトな経営を目指しつつ、権限の集中を緩和するために、合議制の理事会の設置や経営審議会に外部委員を複数名必置とすることにより、バランスをとるような組織体制とした。

○加藤委員長

- ・研究力の水準は素晴らしい。他方、卒業生の 66%が県外に出ていることをどのように評価しているか学長と事務局の両方にお聞きしたい。研究が超一流になればなるほど、卒業後に中央や海外へ出て行く学生は増える傾向にあると思うが、市立大学には学生の地域定着を求められるという側面もある。二律背反するような数字かもしれないが、どのように評価しているか伺いたい。

○原学長

- ・市立大学として岐阜市に貢献することは基本であり、法人化後も変わらない。そのため、卒業生には岐阜市で頑張ってもらいたいと思っているが、薬大には歴史的に全国から学生が集まってくるため、そうした人材を市内に留めてしまってもよいのかという思いもある。岐阜市で学んだ人材を輩出することも市への貢献になり、市の力の表れとなるのではないかな。
- ・また、薬大周辺をライフサイエンス拠点とし、研究のメッカ、学生と企業がマッチングできる場所とすることが、学生の地域定着の道筋になると期待している。学生が全国的、世界的な研究力を身に着けるために、薬大周辺の魅力向上を図ることが一つの課題。小さくまとまらずに大きく羽ばたいていく人材を育てたいという気迫、希望をもってやっている。
- ・入学者数に占める県内入学者の割合と、県内に残る卒業生の割合が奇しくも同じ 23%であり、一定の役割は果たせているのではないかなと思う。ただし、この割合が高まるのが必ずしも良いことだとは考えていない。岐阜市で学び育った力を、全国や世界に広めていくことが薬大の使命だと思っている。

○田中大学改革推進室長

- ・事務局の意見も大きくは変わらない。薬大は市立大学であるため、地域貢献を大学の重要な存在意義の一つとしてもらう必要がある。そのため、地元に残る学生が増え、起業や地域人材として活躍することは喜ばしいが、必ずしもそれだけが地域貢献の形ではないと考えている。学生が薬大の名前を背負って全国や海外へ出て行き、その名前が広まることにも価値があり、例えば有名企業の役員となり大学へ寄付等をしてくださることも貢献になる。様々な場所で薬大の卒業生が活躍することも含めて、地域貢献を広く捉えてもよいのではないかなと考えている。

○若山企画部長

- ・岐阜市内に卒業生の受け皿がないとも言え、市の産業施策において反省すべきところもある。そのため、今回の法人化によりベンチャー企業の創出等が活発になることに期待している。

(4) 岐阜市公立大学法人の中期目標（骨子案）について

◆事務局から資料に基づき説明

○加藤委員長

- ・今説明のあった骨子案について、方針についてのご意見や更に盛り込むべき事項などあればご発言いただきたい。
- ・資料 5-3 の太字はどのような意味か。

○田中大学改革推進室長

- ・太字下線は、岐阜市が特に重要性が高いと考えている箇所に付している。

○加藤委員長

- ・前文に「自律的、機動的かつ効率的な運営」とあり、法人化にあたって重要なワードが並べられている。このうち自律的、効率的については骨子の記載事項（案）の中に読み取れるが、機動的についてはどこで示されているか確認したい。

○田中大学改革推進室長

- ・例えば、機動的という言葉は明示的には出てこないが、第4の「大学の教育研究機能が適切に発揮され、社会の変化に柔軟に適応できる法人組織運営」という部分は、法人自身の考えで機動性をもって対応していくということが読み込めると思う。
- ・骨子から素案を作成する際、機動的という意図がよりしっかりと入る形で本文化したい。

○加藤委員長

- ・加えて、研究に関する目標の外部資金に係る「研究費の戦略的配分」の部分や、財務内容の改善に関する目標の「積極的な自己収入の確保」も機動的な運営の一端を担う箇所になりうると思うので、今後の作業の中で検討していただけるとよい。

○長合委員

- ・法人化に伴い、これまで市費で運営されていたものが自己収入によってある程

度自立的に運営されることになるということだったが、市から交付される運営費交付金の額はこれまでの市の負担額より下がるのか。

○田中大学改革推進室長

- ・将来的なことは現段階でお話しするのが難しいが、法人化当初はこれまでと同等の経営ができる程度に市から手当てするという考え方が想定される。将来的には外部資金の獲得を進めてほしいが、公立大学であるため、すべて自己収入で経営することまでは求めず、市でも一定の運営費交付金を交付し、それに加えて、教育研究の質を高めるための経費を法人自身で確保していったほしいと考えている。

○長谷川委員

- ・中期目標は 6 年間で達成する目標なので、どこかで到達度の評価を行うことを想定し、評価指標をある程度イメージしておく必要がある。数字で評価できるものもあれば評価しにくいものもあり、例えば、地域貢献は単に実施したというだけではなく、それを提供したことで地域住民がどのようなメリットを感じているかということなども見る必要がある。先ほどの大学概要の説明を踏まえると骨子案は妥当な内容かと思うが、論文の本数や国際交流の件数といった評価しやすいものだけでなく、数値以外の評価指標の置き方も考えていくとよいと思う。

○加藤委員長

- ・それは今後の作業において留意してもらおうということによいか。
(長谷川委員より「よい」との回答)

○棚瀬委員

- ・少し狭い範囲の話になるが、現在、病院薬剤師の採用が困難になっている。医薬品が難しくなっており、大病院のリーダー的な人材として、臨床から創薬、適切な医薬品の使用まで網羅している薬剤師が必要。このような人材育成については第 3 の地域貢献の中に入ってくるか。

○田中大学改革推進室長

- ・地域貢献に含まれるかと思うが、どこに入れるのが適切か検討して明文化したい。

○加藤委員長

- ・第 3 の地域貢献に関する目標において、最終的な人材定着の受け皿が具体的に意識されるべきとのご指摘であったと思う。今例示のあった、病院薬剤師の

不足に対する適切な人材供給などを念頭に置いて本文を作成いただきたいということでよいか。

（棚瀬委員より「よい」との回答）

○小林委員

- ・薬大の学生の質や、研究の質という点については申し分ないと思う。
- ・研究費を更に獲得するという話があったが、法人化することで金額が増えるのか。先ほどからの説明ではそれが大きな目的のように聞こえるが、科研費は今でも獲得できるものだと思うので、もう少し説明願いたい。

○原学長

- ・科研費は申請すれば通るものではなく、申請の2、3割しか通らない。獲得するためには研究のレベルを上げる必要があるが、科研費だけでは研究費として十分ではないため、法人化によって企業との連携等による共同研究費等を今まで以上に獲得していくことを目指している。法人化による大学のメリットはここにある。小林薬品工業をはじめ、地元企業との連携は直接的な地域貢献にもなる。
- ・薬大は総合大学ではないため、大きな資金はなかなか獲得できない。そのため、色々な大学との連携によって資金を獲得し、研究力を向上させたいと考えている。研究力の向上により教育力も向上することで、学生の資質向上や就職先の向上につながるといった学生へのメリットも生まれる。このような正のスパイラルに入ることによって大学の発展が望めるため、法人化による外部資金の獲得力強化は重要だと考えている。

○加藤委員長

- ・卒業生のワールドワイドな活躍を目指すということに異論はない。他方、公立大学法人には地域貢献も宿命として求められる。これらを両立させるにはアントレプレナーが重要であるという仮説に立つと、「教育に関する目標」の「起業家精神の育成に注力」について、世界的なアントレプレナーを育成していく必要があるということになるのではないかと。難しいことではあるが、そのような目標を定める必要があると思うところ、お考えを伺いたい。

○原学長

- ・世界的なアントレプレナーの育成が必要であることについては同意見である。薬大ではすでに起業に向けた準備を進めており、Tongali（東海地区の大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクト）にも参加してスタートアップ支援資金の獲得も予定している。
- ・目標は世界であるが、法人化以降はベンチャー企業をまずは一つずつ作ってい

きたいと思っている。いくつ成功するかはわからないが、1 つでも成功させて世界に繋げていきたいと考えており、その可能性はあると信じている。例えば、ナブテスコ株式会社と開設した共同研究講座では、水素の発生と世界規模での活用について研究を開始した。どのような成果が出るかはわからないが、期待は常にあると思っている。

○田中大学改革推進室長

- ・最終的に世界的成果を目指すベンチャーが出てほしいということは仰るとおりだが、委員のご指摘にもあったとおり評価可能な目標設定という観点を踏まえると、現実的に 6 年間でどこまでできるかということも考える必要がある。どこまでを目標として掲げるか検討したい。

○加藤委員長

- ・現実的に成功するかの見通しが立ちにくいということは承知しているが、もしアントレプレナーシップについて高い目標を掲げることが難しいとすれば、どの項目にどのような目標を置けば「ワールドワイドな人材育成」という理念と「地域貢献」を両立させることができるか考える必要がある。中期目標において生みの苦しみとなる課題だと思うが、ご検討いただきたい。
- ・今後の作業に向けた指摘をいくつかいただいたと思うので、事務局においてお取り計らいいただきたい。

4 閉会

○田中大学改革推進室長

- ・いただいた指摘を整理して、次回に向けて準備を進めたい。
- ・次回会議は 9 月 2 日（月）10 時の開催予定なので、よろしくお願いします。

（会議後、薬大の学内視察を実施。）